

原爆文学研究会事務局  
〒814-0180 福岡市城南区七隈8-19-1  
福岡大学人文学部 中野和典研究室内  
tel:092-871-6631 (代表) /e-mail:nakanok@fukuoka-u.ac.jp

## 第57回 原爆文学研究会のご案内

時下益々ご清栄のことと存じます。第57回原爆文学研究会を下記の要領で開催いたします。皆さまには、ご多忙のことと存じますが、万障お繰り合わせの上お集まりくださいますようお願い申し上げます。

会場・資料の準備の都合もありますので、参加をご希望の方は**2018年12月14日(金)までに「①研究会一日目」「②懇親会」「③研究会二日目」のそれぞれについて参加／不参加を明記して事務局にeメールかお電話でお申し込みください。**

### 記

- 日時：2018年12月22日(土)・23日(日)
- 会場：九州大学西新プラザ大会議室(〒814-0002 福岡県福岡市早良区西新2-16-23)
- プログラム

#### 【1日目】12月22日(土) 12:30～18:10

- |       |                                      |                  |
|-------|--------------------------------------|------------------|
| 12:00 | 開場                                   |                  |
| 12:30 | 開会・自己紹介                              |                  |
| 12:50 | 被ばくと奇形をめぐる科学と表象——1950年代の原爆映画を中心に     | 中尾 麻伊香           |
| 14:10 | (休憩 15分)                             |                  |
|       | セッション「『原爆に生きて』から『この世界の片隅で』へ：山代巴を中心に」 |                  |
| 14:25 | 報告1 『原爆に生きて』と山代巴：ジェンダーの問題に着目して       | キアラ・コマストリ        |
| 14:50 | 報告2 『この世界の片隅で』の成立過程：大牟田稔資料を手がかりとして   | 宇野田 尚哉           |
| 15:15 | 全体討論                                 |                  |
| 15:55 | (休憩 15分)                             |                  |
| 16:10 | 「原爆文学」再読6——吉本隆明『「反核」異論』              | 坂口 博・村上 克尚・加島 正浩 |
| 18:10 | 1日目閉会                                |                  |
| 18:30 | 懇親会                                  |                  |

#### 【2日目】12月23日(日) 9:30～13:10

- |       |                                   |                            |
|-------|-----------------------------------|----------------------------|
| 9:00  | 開場                                |                            |
| 9:30  | 東アジアの桎梏の歴史と原爆の文明史的な意味：韓国の原爆文学を中心に | 金 文柱(通訳：崔 範洵)              |
| 10:50 | (休憩 15分)                          |                            |
| 11:05 | ワークショップ「歴史修正主義と1990年代」            | 報告：山本 昭宏・倉橋 耕平 コメント：中谷 いずみ |
| 13:05 | 事務局より                             |                            |
| 13:10 | 2日目閉会                             |                            |

※再読のテキスト、吉本隆明『「反核」異論』(深夜叢書社、1982.12)は現在手に入りにくい状況になっておりますので古書店・図書館などでご入手ください。

※12月23日(日)の14:00より同会場にて世話人会を開催します。世話人のみなさまはご出席ください。

#### 【趣意文】「原爆文学」再読6——吉本隆明『「反核」異論』

吉本隆明(1924～2012)の没後、『「反原発」異論』(論創社、2015.1)が刊行されたことによって、あらためて吉本の核に関する発言が、さまざまな波紋をもたらした。かつての『「反核」異論』(深夜叢書社、1982.12)は、再読提案者にとっては、共感する事柄も多かった。それだけに、その後30年のあいだに、何が変わったのかを「再読」のかたちで確認していきたい。変貌したのは「時代」なのか、「私たち」なのか、吉本なのか。共感しつつも、80年代にはいつ膨大に刊行され続けた対談本・語り本・講演集に辟易して、かえってほとんど読まなくなった吉本の晩年30年を辿りつつ、考えてみたい。(坂口 博)

#### 【趣意文】ワークショップ「歴史修正主義と1990年代」

戦後社会において長らく共有されてきた歴史認識に異議を唱え、それを「修正」しようとする歴史修正主義。歴史修正主義の台頭が問題視されて久しい現代から振り返ると、一つの転機として1990年代半ばの言論情況が浮かび上がってくる。本ワークショップでは、歴史修正主義の台頭期である1990年代半ばの日本におけるメディア言説・表象を対象に、原爆に関する歴史認識論とその背景を考察し、議論したい。

1993年の「河野談話」、1995年の「村山談話」が直接的な契機となり、保守や右派の言論が表面化した。こうした動きとして、1995年7月に設立された「自由主義史観研究会」や、97年の「新しい歴史教科書をつくる会」の発足、さらに、小林よしのり『戦争論』(1998年)などが挙げられる。他方で、加藤典洋『敗戦後論』(1997年)をめぐる論争が示すように、保守・右派による言論の場とは異なる場所でも、歴史認識をめぐる議論の展開がみられたことにも留意したい。加えて想起すべきなのは、戦後長らく潜在し、ときに噴出した戦争や植民地に関わる「戦後処理」の問題である。この問題が、1990年代に再び、「当事者」という問題領域とともに、焦点化されたという点である。

では、1990年代の社会は、歴史を自由に読み替えようとする動きを、どのように受け止めたのか(あるいは、受け止め損ねたのか)。歴史修正主義の台頭に対して、何か別の向き合い方があったのか、どうか。これらの問いは、歴史記述と創作表現における記述との関係をどのように考えればよいのかという、より大きな問いにも接続しうるものだろう。

こうした問題意識に基づき、報告者の山本昭宏は、原爆をめぐる歴史認識問題として、保守系雑誌に掲載された長崎原爆資料館の展示への非難の声の内実を分析する。分析の過程では、スミソニアン博物館におけるエノラ・ゲイ号の展示問題と、日本社会の受け止め方もまた、考察の対象になる。

もう一人の報告者には、『歴史修正主義とサブカルチャー：90年代保守言説のメディア文化』(青弓社、2018年)の著者・倉橋耕平を迎える。倉橋氏には、著書での分析に基づき、保守論壇やマンガなどを扱いながら、日本における歴史修正主義のメディア展開と定着について問題提起をしていただく。

討論者には、メディア言説やジェンダー表象などの視点から近代日本の社会運動や文学にみる戦争の記憶を分析してきた、中谷いずみ氏を迎える。(山本 昭宏)

#### 会場のご案内



福岡空港から地下鉄「姪浜」行き乗車 約20分

博多駅から、地下鉄「姪浜」行き乗車 約15分

→いずれも「西新」駅下車、⑦番出口より徒歩約10分(※「ガスト」を目印に曲がり、川沿いの道を北上してください)